北海道版2014.11

雪たねニュース

Yuki Tane News　No.358

平成26年（2014年）11月1日発行（隔月1回1日発行）

●一年間の御礼
●乳牛の糞洗いについて
●代用乳「まるまるみるく」のご紹介
●営業所通信⑧八雲営業所からのご提案：植生改善について
●「飼料アップとかち」展示会のご案内

一年間の御礼

日頃より弊社製・商品をご愛顧いただき、心から厚くお礼申し上げます。

平成26年を振り返りますと、今年も北海道は異常気象に見舞われ８月下旬、９月中旬の豪雨による洪水や土砂崩れにより記録的な自然災害となり、家屋の倒壊、畜舎や農地の浸水など農業畜産分野にも多大な被害をもたらしました。改めまして被害に遭われた方々には重ねてお見舞い申し上げます。

北海道の生乳生産状況は、昨年夏の猛暑やこれまでの分娩のずれ込みなどで９月までの累計では188.7万トンと下げ幅は徐々に狭まり回復傾向にはありますが、未だに前年を割り込む状況が続いております。道が取り纏めた「道内における酪農経営の離脱状況」（平成26年２月１日現在）によると、生乳出荷戸数は前年比201戸（3.1％）減の6,330戸（アウトサイダー含む）に減少したとあります。その減少要因は、酪農家の高齢化に伴う後継者の不在や労働力不足が最大の要因とし、生産基盤の弱体化が問題視されています。

平成26年10−12月期の配合飼料価格は、為替が夏以降に急速な円安に振れたものの米国産トウモロコシの豊作による価格の値下がりにより今年１−３月期以来３期ぶりに値下げとなりました。しかしながら値下げ後の配合飼料の価格は依然として高水準にあります。道内におきましても春先からの燃料代の高騰やこの秋からの電気料の値上げ不安など酪農経営の厳しさが増幅し、一層のコスト削減が求められています。

弊社と致しましては、これまでと同様に「畜産経営の安定は自給飼料の増産から」を旗印に良質な自給飼料生産に注力しており、今後も全道各地で取り組まれている植生調査や植生改善にも積極的に係わっていく所存です。

弊社は創業者である黒澤酉蔵翁が提唱した「健土健民」を企業理念とし、地域に適応した牧草・飼料作物種子、緑肥作物種子の新品種開発、お客様のニーズに応える製商品・生産技術の開発など循環型農業を推進して参りました。平成25年11月に設立した農業生産法人「（株）TACSしべちゃ（北海道標茶町）」は、自給飼料を基盤に立脚した低コスト酪農の経営実践を目指すとともに、草地管理技術の更なる向上を図り、北海道酪農の発展と持続型社会の構築へ向けた役割を果たしていきたいと考えております。

酪農・畜産農家様の日々目指すところは、いかに消費者様に受け入れられ、かつ喜ばれる「良質な農畜産物」を「いかに効率よくかつ安定的に生産供給するか」にあり、当社はそれを実現するための農業畜産資材、農業技術、及びシステムを生産者の皆様へいかに提供できるかが当社の使命と考えます。

今後も本誌「雪たねニュース」を通して皆様のお役に立てる新しい技術情報や、製・商品のご紹介など一層の充実を図って参りますので、引き続きご愛読くださいますようお願い申し上げます。

今年も残すところ僅かになりましたが、弊社製・商品のご愛顧に感謝申し上げますとともに、27年の輝かしい新春をご家族ともども迎えられます事を心からご祈願申し上げます。

※（株）TACSしべちゃ:標茶町農業協同組合、雪印種苗（株）、標茶町の３者による農業生産法人

雪印種苗株式会社
取締役北海道統括支店長　久保　孝